

伊賀市社会事業協会

2011

2011年8月10日 第22号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL: 0595 - 21 - 5545

FAX: 0595 - 23 - 6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

夏 花 々

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

会 長 森 下 達 也

巨大な津波の襲来を目前に、避難呼び掛けのマイクを握りつづけて逃げ遅れた女性、水門を閉めに走ってそのまま果てた男性など、胸打たれる報道があの日から相次いだ。近年、一体日本はどうなってしまうのだと思ったこともある私だが、考えをあらためた。歳月を要するとしても、日本はきっと立ち直ることだろう。そんな思いを重ねる中で、私はふと、遠い夏の或るエピソードを思い出したのである。

終戦後十数年経った頃のこと、私が働いていた無機化学工場の大坂営業所に、所長としてK氏（故人）が居た。私はKさんより十歳位若輩であったが、職務上定期的に大阪へ出向いて、Kさんと打ち合わせをするようになった。Kさんには軽い吃音症があり、どう見てもシャープな営業マンではない。しかし、所内の職員からも、製品納入先の関係者からも、不思議な信頼を勝ち得ていることを私は感じ取った。やがてKさんは、戦後シベリア抑留からの生還者であること、そして共に生還を果たしたKさんの部下たちが、あの八月について語ったことも知った。以下、Kさん本人から聞き出した内容と併せて、記憶を辿ってみよう。付言すれば、筆者私も大連からの引揚者である。

昭和二十年八月、Kさんは国境の町「満州里」から少し離れた寒村に、二十名余の一隊の長として駐留していた。正確な位置は聞き洩らしたが、兎も角或る大隊の前哨で、Kさんは曹長（下士官）である。其処から三十軒位南に大隊の本隊がいた。運命の八月九日当日、Kさんは上官に呼び出され、単身本隊に出向いていたのである。

八月九日午前一時、ソ連軍は全国境にわたって突如砲撃を開始、やがて百五十万の兵力と五千五百輛の戦車を主軸に侵入した。国境で対峙していた日本軍守備隊はそれぞれ必死に防戦したが、次々に全滅して行く。圧倒的なソ連軍の攻撃を受けて無言のまま消息を絶つ部隊が多く、また満州里の日本人居留民の多くが自決したという。Kさんがたまたま残してきた前線の部下たちの消息も全く不明であった。

Kさんはすぐ、部下たちのところへもどりたいたいと思い出た。それに対して上官から次のような答があったという。「もどると言ったって其処はもう敵軍の支配下だろう。生きて辿りつける筈はあるまい。部下たちは戦って玉碎してくれたに違いない。本隊はこれから南へ転進して友軍との合流を図り再起してソ連軍を撃滅する。お前もついでこい」。こ尤もというほかない。当時、ソ連軍の兇暴さはヨーロッパ

戦線からも風間に聞こえていたこと、そして、転進という軍用語は、退却と同義であることを付け加えておく。それでもKさんは前線にもどりたいと繰り返し主張し、到頭「勝手にしろ」となったのである。

Kさんは、殷々とひびく砲声を聞きながら、ひたすら北へ歩いた。そして何と、ソ連軍に遭遇することもなく、部下たちと再会したのであった。留守中部下たちはそれなりに戦況を判断、K曹長殿がもどつてくることは不可能と考え、現われたソ連戦車に手榴弾を抱いてとびこむこと、生き残ったら自決することなど相談していた。ひょっこりもどってきた曹長殿に、部下たちは呆れながら涙を流してやるこんだという。Kさんは、意外にも犬死にはするまいと説き、投降する旨全員に告げた。そして出現したソ連軍に、手製の白旗を振ったのだ。

それから後のソ連の無法はご承知の通りである。捕虜は総てシベリア各地の収容所へ送り、酷寒の強制労働に従事させた。Kさんのグループはそこでも力を合わせ、励まし合って生きぬいた。そして後年、舞鶴で祖国の土を踏むのである。

転進と称して退却した本隊のその後は知る由もない。しかし一般の日本人と共生共死すべき軍が、まず避難列車を強制徴発して脱出したという事実の存在は、在満皇軍の恐るべき汚点であった。軍人恩給制度などを作る際に、あの日あの曠野に見捨てた女性や子どもたちの姿を、まぶたに描く関係者はいなかったのであろうか。私たち一人ひとりの恥として、終生背負わねばなるまい。

話をもどって、Kさんが後年職場で得た信頼は当然であった。Kさんは、舌先三寸を必要としない「人間力」の持主だったのである。国難ともいふべき日本が、今求めているのは、然ういう人たちなのではないか。

（三重県社会福祉協議会会長）



— 記憶の中の風景『傘職人』 —
松田 昇 写真集『風土記』より

“ふるさと”を訪ねて

盲養護老人ホーム梨ノ木園

梨ノ木園では、ご利用者の故郷や思い出の地を訪ねる「ふるさとを訪ねて」を実施しています。

今回、在園されている田中義道さん(79歳)、酒井外興志さん(74歳)の「以前働いていた鍼灸院がどうなっているか知りたい」という思いから、名古屋市内へ出かけました。約3年ぶりに訪れた横井鍼灸院の建物はそのまま残っており、お二人とも入り口の戸を触ったり外壁に触れ「僕達是从ここから出入りしていたんだよ」と懐かしそうに話されていました。

その後、お二人が通っていた喫茶店「あすなろ」に行きました。鍼灸院から喫茶店までの道中、近所の方から「久しぶり」などと声をかけていただく場面もありました。喫茶店では店主と昔話に花が咲き、お二人がよく注文していた焼きそばを食べながら「やっぱりこの味は特別だね」と当時に戻ったようなひとときを過ごされました。

今後もご利用者の心のふるさとを大切にしていきたいと思えます。



思い出の街での再会

梨丘園開園記念日

身体障害者支援施設梨丘園

記念Tシャツが完成



今年は開園10周年の節目の年です。記念に残る催しをと、熱が入りました。

午前中はリズム体操を行いました。職員の動きと声を頼りに精一杯体を揺らしたり、腕を上げたり「難しいー」と

声をあげながらも日頃の運動不足を解消しているかのようでした。昼食は色とりどりのお寿司バイキングです。爽やかな風が吹くテラスで食事を楽しむ方が多く、「おいしい」とお寿司を頬張る姿があちらこちらで見られました。

午後からはステンシルを使ってのオリジナルTシャツ作りです。10周年の記念にお揃いのマークを袖や胸元に付けたあと、動物や花、イニシャルなど思い思いにデザインし、世界に1つだけのTシャツを完成させました。

皆さんの笑顔と賑やかな声があふれる記念に残る1日となりました。



胸にはバラの絵を



2組の二人羽織が盛り上げました

毎年、母の日にちなんでさまざまな行事を計画しています。今年は職員一人ひとりが独自の出し物を考えました。懐かしい曲のピアノ演奏や仮装を交えた歌、身振り手振りで笑いを誘うヒゲダンス、他にも、職員オリジナルの二人羽織や黒田節など大変賑やかな一週間となりました。

ご利用者の皆様は、出し物に合わせて手拍子をしたり口ずさんだり、日替わりのバラエティーに富んだ出し物に、大いに盛り上がりました。今後もなしのきで過ごす時間が、より楽しいひとときになりますよう工夫し、様々な催しを計画させていただきます。

『母の日特集』

感謝を込めて…

老人デイサービスセンターなしのき



藤井充子先生(右)と俳句を詠みます

ほけんだより

原因のはっきりしない 腰痛について

高齢化社会にともなって、腰部、背部の痛みを訴える人が増えてきました。人口の60%は腰の痛みを経験しており、40%は慢性の痛みを訴えています。腰痛の原因がはっきりしないものから、原因がはっきりするものまで様々ですが、今回は、腰痛の原因がはっきりしないものについて、お話ししたいと思います。

原因のはっきりしない腰の痛みは、人間が2本足で歩くようになったために、宿命的に生じるようになりました。

人間の直立姿勢は、上半身にかかる重力全てを腰部で支えます。そして、腰を前かがみにしたり重いものを持ち上げたりする時は、さらに大きな負担がかかります。この宿命的な痛みは、骨や関節、椎間板に特別な異常がみられず、原因がはっきりしません。このような状態を“腰痛症”と呼んでいます。長時間同じ姿勢や精神的なストレスから、背骨を支えている筋肉が疲れてきて、痛みが起こることが多いようです。日常生活の中で正しい姿勢を心がけることによって、この痛みは生じにくくなります。

立つ時には、軽く腹筋を緊張させて背すじを伸ばし、あごを引いて立つと良い姿勢になります。また、座る時のイスの高さは、高すぎても低すぎても腰に負担がかかります。寝る時は、柔らかすぎないように固めの寝床で寝るように心がけましょう。

腰への負担は、かがんで荷物を持つ時が最も大きく、その次は前かがみになる時です。物を持つ時は膝を曲げて腰を落としましょう。最も腰への負担が軽くなるのはうつ伏せです。

痛みが強いときは、腰を温めて筋肉内の血のめぐりをよくしましょう。それでも痛い時は、痛み止めや筋肉の緊張をとる薬が使われます。

日常良い姿勢が保てるように、腹筋や背筋を鍛えて腰痛を予防しましょう。

梨ノ木診療所所長 医師 山崎 征治

盲養護老人ホーム梨ノ木園ではご利用者に楽しんでいただけるように様々なクラブ活動を行なっています。十一のクラブの内四つのクラブは講師のご指導を受けて活動しています。

花についてのお話でクラブの雰囲気盛り上げて下さる「ふらわークラブ」の田中美代子先生。クラブ員それぞれの個性を大切に、時には筆を執り手を添えて下さる「書道クラブ」の森下弘子先生。クラブ員の思いをしっかりと読み取って下さる「俳句クラブ」の藤井充子先生。そして高音の美しい声でクラブ員を引っ張って下さる「詩吟クラブ」の福田定子先生。この四人の先生方がボランティアで各クラブを支えて下さっています。

クラブに参加されているご利用者はもちろん、職員も感謝の気持ちで指導を受け、楽しいひとときを過ごさせていただいています。講師の先生方の思いに応えられるよう今後も頑張っていきたいと思っています。



大きな声が響く詩吟クラブ・福田定子先生(左)

素晴らしい先生方に恵まれて

盲養護老人ホーム梨ノ木園

「楽しさ、おもしろさいっぱい ビデオ鑑賞会」

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園

第二梨ノ木園では、ご利用者の方々に楽しいひとときを過ごしていただけるよう、毎月ビデオ鑑賞会を開催しています。

今回はどのようなビデオで楽しんでもらおうかと思い、事前に希望を尋ねると、ご利用者から「笑って楽しめる漫才」との声が多くあり、その中から『爆笑王 やすしきよし』を見ていただくことに決めました。



笑いが一番 —ビデオ鑑賞会—

ビデオが始まると、あちらこちらで笑い声が上がり、面会に来られていたご家族も一緒になって笑っておられました。ご利用者の方から「笑いはお腹の体操にもなるね」「本当に楽しかった」などの声が聞かれ、「来月はなんやろ」と早々に次回を楽しみにされていました。

4月20日、みどり保育園ねほんぼうホールにおいて、伊賀市長様、三重県子ども家庭室長様はじめ、関係機関の皆様のご臨席を賜わり改築竣工式を挙行了いたしました。ご来賓の方々からは温かいご祝辞をいただき、5歳児の歌やくす玉が竣工式に華を添えました。当園は、昭和43年上野市母子寮の一部を改築して開園しました。その後、昭和52年に改築しましたが、園舎の老朽化や入所希望児童数の増加等の理由により、今回の全面改築に至りました。

子どもたちからは「ピカピカの園舎を大切にしような」「ランチルームってレストランみたいや!」と喜びの声が聞かれ、保護者の皆様からも、広くて明るい斬新な園舎に満足いただいております。

当園は保護者の様々なニーズに応えるため、障がい児保育、乳児保育、延長保育、子育て支援などの特別保育事業を早くから実施してきました。中でも障がい児保育事業は、昭和52年より統合保育の拠点園としてスタート

し、重点的に取り組んできました。しかし、「一人ひとりに応じたきめ細かい関わりができていないのではないか」との思いから、当時の森下理事長(現:会長)、西岡事務局長(現:理事長)が研究のために全国各地の施設を見学し、専門家の方よりさまざまなアドバイスをいただきました。そして、一步前進した



ランチルームで食事をする子どもたち



来賓の皆様と園児たちが、竣工祝いのくす玉を割る
(写真は毎日新聞社様よりご提供いただきました)

障がい児保育を実施しようと、昭和60年に県と市行政のご支援の下で、みどり保育園とは機能的に独立した心身障害児療育施設「かしのみ園」を棟続きで併設しました。

今回の改築で両園が一体化されましたが、一人ひとりの発達特性に応じて、小集団の中で個別的専門的療育保育を行ないつつ、交流・統合保育を有機的に行なうという、かしのみ園開設当初の理念を迷うことなく貫き、今

後も療育の効果を高めていきたいと考えております。

これからも子どもたちが仲間を大切に、共に育つことができるように取り組み、地域に根ざした子育て支援の拠点となるよう、職員一同努力してまいりたいと思います。



総合遊具の前で記念撮影

学校が終わると、ランドセルを背負った子どもたちが、「ヴェルデ」に元気よく帰ってきます。宿題を済ませたら、みんなでカードゲームをするなど、楽しく過ごします。

保護者からは子どもを留守宅へ帰す不安が拭かれたと、喜んでいただいております。

今後のかしのみ園で長年培ってきた療育保育のノウハウを活かしながら、子どもの成長を見守り、安全に努めていきたいと思っております。

改築竣工したみどり保育園・かしのみ園に、日中一時支援事業所「ヴェルデ」を開所しました。同事業は、以前よりニーズが高かった障がいのある小学生に、放課後及び長期休暇中の生活と遊びの場を提供することで、保護者の就労支援と介護負担の軽減につなげています。

「ヴェルデ」とは、イタリア語で「みどり色」を意味します。当法人では「ヴェルデ」から「明るいみどり」をイメージし、子どもたちの健やかで元気な姿を重ね合わせました。



宿題をする子どもたち



職員による送迎サービスの様子

日中一時支援事業
「ヴェルデ」開所
心身障害児療育施設かしのみ園



「きれいな歯をしているね…」

嘱託歯科医の稲本良則先生を前に、少し緊張ぎみの子どもたち。「きれいな歯をしているね。噛み合わせもいいです」という言葉に「ありがとうございます」とほっとした様子。「毎日、歯をみがきましよう」「かかりつけの歯科医院で定期検診を受けましよう」とご指導いただきました。検診の結果は健康記録簿についで、アドバイスは園だよりで保護者にお知らせしています。

生涯にわたっての健康維持にかかせない歯を、乳幼児期から大切にする習慣を身につけていきたいと思えます。

古山保育園

「歯を大切にしよう」
— 嘱託医による歯科検診 —

保育所の歌ができた「すこやかな成長を願って」

ゆめが丘保育所

開設以来10年目を迎えた当保育所には、「保育所の歌」がなく、寂しさを感じていました。そこで、日頃ご支援をいただいている地域の方の協力を得て、今春、親しみやすく口ずさみやすい歌ができました。早速、歌詞を記した木製の額が、年長児48名と地域の方々の共同で、卒園制作としてできあがりました。



地域の方々と園児たちの歌声が響きます。
(写真は中日新聞社様よりご提供いただきました)

取材に訪れた或る新聞社の取材後記に「私自身、20年以上前に卒園した園の歌を今も覚えている。口ずさむと、園の風景や



額縁を作製する地域の方々

泥だらけになって一緒に遊んだ友だちの顔を次々と思い出す。地域の方々とつながりで出来た保育所の歌が、10年後、20年後に子どもたちの大きな宝物になるはずだ」と結んでありました。

人と人とのつながりの大切さを身をもって教えて下さっている地域の方々と保育所の歌がオーバーラップして、子どもたち一人ひとりの心に宿る原風景の中に、いつまでも残るようにと願っています。



人形劇「子どものとび出しをなくそう」

送迎時に駐車場で車の間から子どもがとび出して、ハッとすることがあります。そこで伊賀市交通安全協会の方々に、とび出しがいかに危ないかを、人形劇を通して親子に啓発していただきました。劇に登場したタヌキのように「駐車場ではお家の人と手をつなぎ、とび出さないようにしましう」と約束しました。子どもの交通事故原因で最も多い「とび出し」に関心を持ち、子どもの安全を守る思いをいっそう強くすることができました。

「親子交通安全教室」
とび出し注意
友生保育園

「点訳講習会」と「手話講習会」が始まりました

上野点字図書館

5月から、点訳講習会と手話講習会を開催しています。ともに来年の3月まで、全22回の講習です。

点訳講習会は、点字図書の製作に携わっていただくボランティアの養成を目的としています。視覚障がい者の特性や視覚障がい者の情報取得の困難さを理解した上で、正確で読みやすい図書を製作するための点訳技術の習得を目指します。

点訳の作業には、漢字の読みや文法の知識も必要です。受講生は、「学生時代、もっと勉強しておけばよかった」と、文法の参考書や辞書を片手に課題に取り組んでいます。

手話講習会では、簡単な日常会話を学んでいます。手話は「見ることば」であり、形にとらわれず伝えようという思いが大切です。最初は照れながら講師の表現を真似ていた受講生も、講習が進むにつれて、自然と表情が豊かになります。

点字や手話は、視覚や聴覚に障がいがある人々にとって、大切なコミュニケーション手段です。これらの講習会を通して、障がい者への理解を深めたいと思います。



手話講習会の開講式

平成23年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が、東北・三陸沖を震源として発生し、大津波は広範囲に甚大な被害をもたらしました。日本国内はもちろん、世界各国から「がんばろう日本」のメッセージと支援の手が差し伸べられています。当法人でも、微力ながら職員一人ひとりが、被災者の救済及び被災地の復興に役立てていただくために、三重県共同募金会を通じて義援金に協力をさせていただきました。被災された皆様方が、一日も早く安寧な生活を取り戻されることを祈念致します。

私たちも出来る限りの節電と節約を心掛けるとともに、いつ発生してもおかしくないとされている東海・東南海・南海地震に備え、最大限の対策をしていきたいと思います。

東日本大震災―義援金等を送る―

「就労継続支援B型事業を始めました」

かしの木ひろば

かしの木ひろばでは今年度、多機能型事業所として生活介護事業に加え、「就労継続支援B型事業」(定員10名)を始めました。現在30代から60代のご利用者6名が作業をしています。

作業の内容は、商品の組み立てや包装、さわり織製品の袋詰めです。毎朝、全員で作業内容や手順の確認を行ったり、目標出荷個数を決めたりすることで、ご利用者の皆さんは働く意欲が今まで以上に高まってきており、出荷数の増加と共に作業工賃が増えていくことも望まれています。

伊賀市障がい者相談支援センターや就労支援センター等の関係機関と連携をさらに密にし、一人でも多くのご利用者が一般就労できるように取り組んでいきたいと思っています。



納期に間に合わせるため、一心に作業をします

「五月晴れの日」

生活介護事業所かしの木ひろば

伊賀市柘植町にある余野公園へボランティアの皆さんといっしょにドライブを兼ねた散歩に出かけました。ドライブが大好きなご利用者は名阪国道がお気に入り、他の車が追い抜いていく様子や、エンジン音を体で感じているようにした。余野公園につくと見頃を迎えた満開のつつじが目に見え、飛び込んできました。「きれいやな」「青い空と緑の芝生のじゅうたんが気持ちええな」と爽やかな風をうけて、会話が弾みました。



見頃を迎えた美しいつつじを楽しむご利用者とボランティア

心地良い日差しの中で散歩を満喫したあと、つつじや松の木陰の芝生の上に座り込み、のどをうるおしました。「つつじはきれいやし、いつもよりおいしく感じるわ」「そういえば、昔よく、つつじの花の蜜を吸ったな」と思い出話にも花が咲き、心とむ楽しいひとときを過ごすことができました。

お知らせ

個人 ― 敬称略・五十音順 ―

団体 ― 敬称略・順不同 ―

井岡 昭	池内恵美子	稲森千鶴子	上野点訳奉仕グループあひ、
稲森 眞文	稲森 光子	稲森 律子	上野点訳グループあひ、
上田 昭男	上田 順子	上野タエ子	名張点訳グループあひ、
恵村 洋子	太田 久子	岡田 茂樹	名張点訳グループあひ、
岡森 明彦	岡森 金一	岡森眞理子	伊賀市更生保護女性会の会
小川 秀貴	奥田 英夫	奥田やえ子	絵本ボランティア「ももこ」
門田 進	北泉 優子	北森 秀樹	カマキリ部隊、舊門ホール「語り部塾」、
木村 公司	木村 良秋	葛岡エミ子	ボランティアグループあひ、
後藤 のぶ	佐々木聖子	清水 栄子	ボランティアグループあひ、
清水 潔	清水みどり	杉本ちえみ	伊賀市消防団西部分団長田部、
角田 充代	角田 宗成	曾我 京子	伊賀市消防団西部分団長田部、
武岡 俊昭	竹島 和実	田中 澄夫	伊賀市消防団西部分団長田部、
田中美代子	谷本 善	玉川 弘毅	伊賀市消防団西部分団長田部、
玉台 正和	田山紗知子	樽本 弘	伊賀市消防団西部分団長田部、
塚本 初子	戸上 宗賢	戸高 久昭	伊賀市消防団西部分団長田部、
豊岡 百子	豊田 實	中川 定子	伊賀市消防団西部分団長田部、
長島 貢	中瀬 治	中出 潔巳	伊賀市消防団西部分団長田部、
中野 靖子	長町 尚格	中村 智美	伊賀市消防団西部分団長田部、
中村 昌子	中森 洋子	中山 洋美	伊賀市消防団西部分団長田部、
西井ふさ子	西口 勇雄	西口 妙子	伊賀市消防団西部分団長田部、
西口 保次	西田 誠	西出 成子	伊賀市消防団西部分団長田部、
萩本 孝夫	早瀬 福子	平井 征士	伊賀市消防団西部分団長田部、
福田 定子	福森 隆夫	藤井 恵美	伊賀市消防団西部分団長田部、
藤井 充子	藤島 千代	藤永 清信	伊賀市消防団西部分団長田部、
藤林 政代	藤森 直美	藤森 三重	伊賀市消防団西部分団長田部、
本庄 秋弘	前川 健一	前川 悟	伊賀市消防団西部分団長田部、
前川 萬機子	前川 光枝	前田 洋	伊賀市消防団西部分団長田部、
松田 玉江	松田 雅子	松永 省三	伊賀市消防団西部分団長田部、
南出 寛三	宮土 和子	三輪 隆三	伊賀市消防団西部分団長田部、
森 令子	森岡 佑子	森下 弘子	伊賀市消防団西部分団長田部、
森田 満枝	森田やえ子	森中 一美	伊賀市消防団西部分団長田部、
森本 敏子	八尾 彰一	矢口キヌ代	伊賀市消防団西部分団長田部、
矢倉 昌	山口 義美	山下登美子	伊賀市消防団西部分団長田部、
山田 龍男	山本 京子	山本 新	伊賀市消防団西部分団長田部、
山本 正信	吉村眞智子	柳島 正一	伊賀市消防団西部分団長田部、
竜瀬くみ代			伊賀市消防団西部分団長田部、

◇ご支援ご協力いただいている方々◇
(平成22年11月～平成23年7月)

～ 平成22年度 当法人の決算諸表 (公益事業会計含む) ～

資金収支計算書(法人全体)

平成22年4月1日～平成23年3月31日 (千円)

勘定科目	決算額
介護保険収入	378,764
自立支援費収入	200,044
利用料収入	23,459
措置費収入	190,716
運営費収入	1,045,807
私的契約利用料収入	3,431
その他の事業費収入	70,565
経常経費補助金収入	243,052
寄附金収入	23,827
雑収入	23,955
借入金利息補助金収入	80
受取利息配当金収入	312
会計単位間繰入金収入	3,300
経理区分間繰入金収入	69,563
経常収入計	2,276,875
人件費支出	1,588,706
事務費支出	183,429
事業費支出	317,774
借入金利息支出	639
会計単位間繰入金支出	3,300
経理区分間繰入金支出	69,563
利用者負担減額	531
経常支出計	2,163,942
【経常活動資金収支差額】	112,933
施設整備等補助金収入	535,399
施設整備等収入計	535,399
固定資産取得支出	601,283
施設整備等支出計	601,283
【施設整備資金収支差額】	-65,884
借入金元金償還補助金収入	8,000
積立預金取崩収入	47,520
財務収入計	55,520
借入金元金償還支出	11,504
積立預金積立支出	72,012
流動資産評価減資金減少額	100
財務支出計	83,616
【財務活動資金収支差額】	-28,096
<当期資金収支差額合計>	18,953
(前期末支払資金残高)	264,495
当期末支払資金残高	283,448

事業活動収支計算書(法人全体)

平成22年4月1日～平成23年3月31日 (千円)

勘定科目	決算額
介護保険収入	378,764
自立支援費収入	200,044
利用料収入	23,459
措置費収入	190,716
私的契約利用料収入	3,431
その他の事業費収入	70,565
経常経費補助金収入	243,052
寄附金収入	23,827
雑収入	23,955
引当金戻入	145,482
借入金元金償還補助金収入	8,000
国庫補助金等特種立取崩額	70,485
事業活動収入計	2,427,589
人件費支出	1,584,700
事務費支出	183,429
事業費支出	317,775
減価償却費	126,390
徴収不能額	100
利用者負担減額	531
引当金繰入	154,725
事業活動支出計	2,367,650
【事業活動収支差額】	59,939
借入金利息補助金収入	80
受取利息配当金収入	313
会計単位間繰入金収入	3,300
経理区分間繰入金収入	69,563
事業活動外収入計	73,256
借入金利息支出	639
会計単位間繰入金支出	3,300
経理区分間繰入金支出	69,563
事業活動外支出計	73,502
【事業活動外収支差額】	-246
【経常収支差額】	59,693
施設整備等補助金収入	535,399
国庫補助金積立取崩額	304
その他の収入(事業活動)	36,405
特別収入	572,108
固定資産売却損処分損	7,926
国庫特別積立金積立額	535,399
その他の支出(事業活動)	36,404
特別支出	579,729
【特別収支差額】	-7,621
【当期活動収支差額】	52,072
(前期末繰越活動収支差額)	849,894
【当期末繰越活動収支差額】	901,966
その他の積立金取崩額	47,520
その他の積立金積立額	72,012
【次期繰越活動収支差額】	877,474

貸借対照表(法人全体)

平成22年4月1日～平成23年3月31日 (千円)

勘定科目	決算額
流動資産	387,836
現金預金	144,919
未収金	241,908
前払金	989
仮払金	20
固定資産	3,154,219
固定資産(基本財産)	2,233,961
建物	2,046,506
土地	187,455
固定資産(その他固定資産)	920,258
建物	123
構築物	30,812
機械及び装置	19,702
車両運搬具	9,545
器具及び備品	95,793
ソフトウェア	480
権利	898
投資有価証券	11
措置施設繰越特定預金	86,752
建設積立預金	74,000
償還積立預金	5,000
人件費積立預金	73,700
修繕積立預金	196,820
備品等購入積立預金	52,216
保育所施設整備整備積立預金	65,800
退職引当金	147,518
その他の積立預金	61,000
その他の固定資産	88
資産の部合計	3,542,055
流動負債	209,583
前払金	92,279
前払金	150
仮受金	8,031
貸与引当金	105,195
固定負債	171,130
設備資金借入金	23,612
退職給付引当金	147,518
負債の部合計	380,713
純資産の部	111,313
基本金	1,557,267
国庫補助金特別積立金	615,288
その他の積立金	877,474
次期繰越活動収支差額	52,072
(うち当期活動収支差額)	52,072
純資産の部合計	3,161,342
負債及び純資産の部合計	3,542,055

編集後記

このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。

この未曾有の災害を経験して電気、ガソリンなど当たり前のように消費していた日常であった事に気づかされました。各施設で、節電対策として少しでも夏を涼しく感じられるように、ゴーヤのグリーンカーテン作りに挑戦しました。

今回の会報二十二号では、老人・障がい施設で開園記念、保育園の竣工式などを掲載いたしました。これも、たくさんの方々に支えられているおかげであることを深く感謝致します。

(編集子O)

施設案内

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園
開園三十周年を迎えて

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園



第二梨ノ木園正面

「第二梨ノ木園」は昭和五十六年に開園しました。特別養護老人ホームとして上野市（現・伊賀市）に最初に開設された施設です。当施設は常時介護が必要で在宅での生活が困難な高齢者の介護施設です。入所定員五〇名に加え、ショートステイ定員二〇名の計七〇名のご利用者が生活されています。「ご利用者の尊厳を大切に」を運営方針の第一に掲げ、やさしく、親切な介護を常に心がけ、快適かつ安心安全な生活を送っていただける事を目標としています。合わせて、三重県下唯一の盲養護老人ホーム「梨ノ木園」と隣設している



第二梨ノ木園開園記念日の様子

特養として、視覚障がいのあるご利用者に対する介護の専門性を持った施設でもあります。

五月一日にはご家族の皆様、地元地域の皆様のご協力に支えられ開園三十周年を迎えることが出来ました。開園記念日には、ご利用者の皆様「わが心の歌」と題し、お一人おひとりの心に残っている歌を発表しました。ご利用者からは「私も好きや」「懐かしいな」と声が上がリ、歌を口ずさまれ、若き頃のあの日にタイムスリップした時間を過ごされました。

今後ともご利用者の皆様に「ここに居て良かった」と満足していただけるよう日々努力を重ねてまいりたいと思います。

新入職員の紹介

周りの人から愛され信頼される保育士を目指します。常に目標を持って努力し向上していきたいです。
【睦保育園】M・H

何事も学びの姿勢を心掛け、子どもたちや保護者の方から信頼される保育士を目指します。
【睦保育園】T・E

初心を忘れず常に笑顔でいることを心掛け、子ども達と一緒に日々成長していきたいです。
【三田保育園】H・S

私は、信頼される保育士になるために、誠実に子どもと向きあっていきたいと思います。
【友生保育園】M・A

日々学び、日々考え、日々努力。今日よりも明日が成長できるように、歩んでいきたいです。
【花之木保育園】I・A

子ども達全員に、給食だいすきと言ってもらえるおいしい給食を作りたいです。
【ひかり保育園】T・M

初心を大切にし、常に謙虚さと感謝の気持ちを忘れない保育士を目指します。
【府中保育園】Y・M

笑顔と学びを忘れずに、子どもと共に日々成長できるよう保育に取り組んでいきたいです。
【ゆめが丘保育所】W・A

当法人主催の新入職員研修を終えた直後、15名のフレッシュな声を聞きました。希望と決意を胸に、それぞれの施設でがんばるルーキーをよろしくお願いいたします。

一日一日を大切に、毎日元気に笑顔で自分の保育に充分な自信が持てるよう頑張ります。
【ゆめが丘保育所】S・M

元気・笑顔・明るさを持ち続け、一生懸命、前向きに、「人が好き」を忘れず人生を楽しみたいです。
【梨ノ木園】N・R

毎日笑顔で初心を忘れず、過ごしていきたいと思います。好きな言葉は一期一会です。
【梨ノ木園】K・K

介護はとても大変で体力もほしいですが、常に

笑顔で熱意を持って仕事に励みたいです。

【第二梨ノ木園】K・J

相手の立場に立って物事を考えられるようにになりたいです。
【第二梨ノ木園】T・A

食事を食べて頂く方の笑顔を思い浮かべ、日々心のこもった温かい食事作りに励みます。
【第二梨ノ木園】M・Y

何事にも積極的な姿勢を持ち、自分から進んで考え、動ける職員になりたいです。
【かしの木ひろば】Y・H



新任研修が行なわれたみどり保育園園庭で記念撮影

東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。